

科目名	組織倫理論特講	担当者	カミイ 神井 ヒロユキ 弘之	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>今日の組織のリーダーには、所属する（あるいは設立、再建に携わる）組織が、激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げられるよう、組織倫理向上のための取組を企画し、実践することが求められています。</p> <p>本講座は、持続可能な開発目標（SDGs）やCreating Shared Value（CSV）など社会の環境変化に向き合う際の指針となり得る事項に関する知識を身につけるとともに、具体的なケースを通じて、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座から、個別組織の現状の評価・分析、課題抽出を行う技術などを修得することにより、学修者が、組織のリーダーとして、組織倫理向上の取組をデザインし、実践する能力を身につけることを目的とします。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】</p> <p>学修者が、組織のリーダーとして、所属する組織が、激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げられるよう、組織倫理向上のための取組を企画・実践するため、①社会の環境変化に向き合う際の指針となり得る事項に関する知識を獲得し、②個別組織の現状の評価・分析、課題抽出を行い、それを実践する体制のデザイン等の取組を行う技能を修得し、③具体的な行動に際して、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座に配慮する態度を身につけることを目標とします。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <p>①（知識・想起・解釈）SDGs や CSV、東洋思想を踏まえた渋沢栄一の経営哲学など、社会の環境変化に向き合う際の指針となり得る事項に関して説明でき、そのフレームを、個別の組織が置かれている状況に適用することができる。</p> <p>②（知識・問題解決／技能）SDGs や CSV などに関する知識を不確実な未来の環境変化を予測する指針として用いること等により、具体的な組織倫理向上のための取組（ケース）を評価・分析し、課題を抽出することができる。</p> <p>③（技能／態度）②の技能で抽出した課題に対して、組織ミッションの再構築、解決のための体制のデザイン、構成員のモチベーション向上等の組織倫理向上のための取組を構想することができる。この際、国内外の先行事例に関する評価・分析を踏まえ、グローバルな視座、歴史を俯瞰する視座を取り入れるよう配慮することができる。【一般目標（GIO）】</p>		
学修方略 (方法)	<p>【学修方略、アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>・manaba folio を利用して、教員と学修者との間での双方向を重視した指導を実施します。</p> <p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>①基本教材及び参考図書を熟読し、内容の理解を深める（自習）【SBO①②】【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>②レポート課題に則して情報を収集・分析する（自習）【SBO②③】【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>③課題レポートの初稿を作成する（レポート作成）【SBO②③】【15 時間/レポート 1 本】</p> <p>④manaba folio を利用したレポート添削で教員と意見交換を行う（ディベート）【SBO①②③】【15 時間/レポート 1 本】</p>		
スケジュール	<p>【前期】レポート課題 1 は 7 月末に草稿提出、レポート課題 2 は 8 月末に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>【後期】レポート課題 1 は 11 月中旬に草稿提出、レポート課題 2 は 12 月中旬に草稿提出、複数回の意見交換と修正を経て、最終稿の提出期限は学事暦に従う。</p> <p>※レポート課題の草稿について、意見交換と修正を何度か行うことで、修士論文を書く際に必要となる基礎的な事項を修得することが出来ます。そのためには、レポートの草稿を極力早い時期より提出することが望まれます。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	レポートの評価は全体で、80%とします。前期レポート課題 1・2、後期レポート課題 1・2 に、それぞれ 20%を配分します。
	観察記録	20 %	レポート課題の草稿提出から最終稿提出までのプロセスにおける対応（例えば、加筆、修正のコメントに対する対応）を評価します。1 つのレポート課題に、5%を配分します。
履修者への要望	<p>本講座では、組織倫理について学ぶ意義を、自らが所属する（あるいは、今後設立や再建に携わる）組織を、激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げられるような状態にすることに置いています。その趣旨を踏まえて、自分なりのオリジナルな解釈を論理的に記述することが重要です。基本教材を読むことで全てのレポート課題に対応可能ですが、参考図書等で、具体的な組織倫理向上の事例や、その論理的な分析に多く触れることがより望ましいと考えます。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： モニター デロイト編            教材名： 『SDGs が問いかける経営の未来』（日本経済新聞出版社、2018年）            ISBN978-4-532-32236-6 2,500円＋税</p> <p>経営者の立場から、SDGs を解釈し直し、社会価値創出が経済価値創出と同等に企業活動においても重要とされる時代に、どのように経営モデルを変革し、大きな変化の中で生き抜くか、企業の経営目標の在り方、経営戦略・事業戦略の在り方、事業創造の在り方を検証した書籍です。</p>
参考図書	<p>藤井剛『CSV時代のイノベーション戦略 「社会課題」から骨太な新事業を産み出す』（ファーストプレス、2014年）ISBN978-4-904336-79-3 1,800円＋税</p>
履修上のポイント	<p>SDGs をテーマにした書籍を基本教材1としたのは、今日の組織が組織倫理向上の取組について検討するに当たって、SDGs が、社会の環境変化に向き合う際の着眼点を提示しているからです。SDGs と組織倫理の関連性について、常に念頭に置いて、レポート作成に臨むよう、留意してください。</p>
レポート課題 1	<p>SDGs の特徴とその存在がもたらす組織の経営モデルの変革について、3000字程度でまとめる。  <b>留意点：</b>基本教材1の記述を基に記述をまとめることが基本となりますが、単なる引用に終始しないよう、自分なりの考察を加えることが重要です。</p>
レポート課題 2	<p>SDGs の存在がもたらす組織の経営モデルの変革が組織倫理向上の取組に及ぼす影響について、3000字程度でまとめる。  <b>留意点：</b>基本教材1を組織倫理の観点から捉え直すことが重要です。激変する環境変化に適応して、社会的に妥当とされる公正な行動を選択し、持続的な発展を遂げるために、組織倫理向上に取り組むというスタンスです。</p>

基本教材 2 (1)・(2)	
教材(1)の概要	<p>著者名： 渋沢栄一著、守屋淳訳            教材名： 『現代語訳 論語と算盤』（筑摩書房、2010年）ISBN978-4-48006-535-3</p> <p>「日本実業界の父」とされる渋沢栄一が、「利潤と道徳を調和させる」という、生涯を通じて貫いた経営哲学について記した書籍です。</p>
教材(2)の概要	<p>著者名： 塚越寛著            教材名： 『末広がりのおいしい会社をつくる 人も社会も幸せになる年輪経営』（サンクチュアリ出版、2019年）ISBN978-4-86113-862-1 1,500円＋税</p> <p>トヨタ自動車株式会社豊田章男氏が手本とし、2018年渋沢栄一賞を受賞した伊那食品工業株式会社の経営理念と実践をまとめた書籍です。</p>
参考図書	<p>中野千秋・高巖編『企業倫理と社会の持続可能性』（麗澤大学出版会、2016年）ISBN 978-4-89205-633-8 2,600円＋税            ジョン・ブルックス著、須川綾子訳『人と企業はどこで間違えるのか？ 成功と失敗の本質を探る「10の物語」』（ダイヤモンド社、2014年）ISBN 978-4-478-02977-0 1,800円＋税</p>
履修上のポイント	<p>我が国における企業の組織倫理（経営理念）について記した古典『論語と算盤』と、現代のトップランナー企業の経営理念と実践について記した『末広がりのおいしい会社をつくる 人も社会も幸せになる年輪経営』の2冊を基本教材2としました。基本教材1で学んだSDGsなど最新の視座、グローバルな視座を保ちながら、歴史を俯瞰する視座、日本らしさを見つめ直す視座もあわせ持って、組織倫理向上について考察することが有益だと考えます。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材2(1)で示された渋沢栄一の経営哲学と基本教材1で示されたSDGsを踏まえた経営理念を比較し、その類似点、相違点について考察し、今後の我が国の組織倫理向上の取組に対して得られた示唆について、3,000字程度でまとめる。  <b>留意点：</b>単に基本教材からの引用に終始することを避け、組織倫理向上の観点に絞り込んで、自分なりの考察を行うことが重要と考えます。なお、参考図書『企業倫理と社会の持続可能性』は企業倫理に関する論文集であるため、論理的な分析を行うための枠組みを検討する際に参考になると考えます。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材2(2)で示された伊那食品工業株式会社の経営理念と具体的な組織倫理向上の取組について、基本教材1や基本教材2(1)で学んだ内容を踏まえて、評価・分析し、今後の我が国の組織倫理向上の取組に対して得られた示唆について、3,000字程度でまとめる。  <b>留意点：</b>単に基本教材からの引用に終始することを避け、組織倫理向上の観点に絞り込んで、自分なりの考察を行うことが重要と考えます。なお、参考図書『企業倫理と社会の持続可能性』は企業倫理に関する論文集であるため、論理的な分析を行うための枠組みを検討する際に参考になると考えます。</p>

### 基本教材 1

第 1 回	基本教材 1 の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第 2 回	基本教材 1 に基づく学修①(世界のサステナビリティ底流)
第 3 回	基本教材 1 に基づく学修② (SDGs のビジネス言語への翻訳)
第 4 回	基本教材 1 に基づく学修③ (政府規制と ESG 投資)
第 5 回	基本教材 1 に基づく学修④ (NGO と消費者)
第 6 回	基本教材 1 に基づく学修⑤ (新たな経営モデルへのシフト)
第 7 回	基本教材 1 に基づく学修⑥ (社会課題と競争戦略)
第 8 回	基本教材 1 に基づく学修⑦ (インテリジェンス機能とサステナブルなサプライチェーン)
第 9 回	基本教材 1 に基づく学修⑧ (ブランディング力とアドボカシー能力)
第 10 回	基本教材 1 に基づく学修⑨ (新たなマネジメントシステム)
第 11 回	レポート課題 1 の草稿取りまとめ
第 12 回	教員からのレポート課題 1 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 13 回	レポート課題 2 の草稿取りまとめ
第 14 回	教員からのレポート課題 2 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出

### 基本教材 2 (1)・(2)

第 1 回	基本教材 2 (1)・(2) の狙いと学修方法についてのオリエンテーション
第 2 回	基本教材 2 (1) に基づく学修①(処世と信条、立志と学問)
第 3 回	基本教材 2 (1) に基づく学修② (常識と習慣、仁義と富貴)
第 4 回	基本教材 2 (1) に基づく学修③ (理想と迷信、人格と修養)
第 5 回	基本教材 2 (1) に基づく学修④ (算盤と権利、実業と士道)
第 6 回	基本教材 2 (1) に基づく学修⑤ (教育と情誼、成敗と運命)
第 7 回	基本教材 2 (2) に基づく学修① (「いい会社」をめざして)
第 8 回	基本教材 2 (2) に基づく学修② (年輪経営でみんなハッピー)
第 9 回	基本教材 2 (2) に基づく学修③ (遠きをはかる経営)
第 10 回	基本教材 2 (2) に基づく学修④ (「忘己利他」こそ、人生のあるべき姿)
第 11 回	レポート課題 1 の草稿取りまとめ
第 12 回	教員からのレポート課題 1 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 13 回	レポート課題 2 の草稿取りまとめ
第 14 回	教員からのレポート課題 2 の草稿に対するアドバイス、指摘を踏まえた考察、修正
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 について、必要な加筆・修正を加え、最終稿を提出